

熟年パワー社会還元研究部会 開催状況概略

第1回

日時：平成25年8月7日（木）13：30～15：30

場所：役場3階議会第2会議室

出席者：押味委員、右城委員、藤岡委員、山口委員
協働文化推進課 伊藤

内容：熟年パワーの社会還元について、意見交換

町から状況を聞いてみたい内容として子供への関わり（学童保育への関わりや地域集会所を活用した取り組みなど）が挙げられたため、次回会議で子ども青少年課の職員に出席依頼し、話を聞くこととした。

第2回

日時：平成25年8月29日（木）13：30～15：30

場所：役場3階議会第2会議室

出席者：押味委員、右城委員、藤岡委員、山口委員、横手委員
子ども青少年課 門脇・原田 協働文化推進課 伊藤

内容：学童保育の状況を中心に質問、意見交換

本日の内容も踏まえながら、次回の会議で改めて皆さんから意見をいただき検討をする内容を詰めていくこととした。

第3回

日時：平成25年10月24日（木）13：30～14：30

場所：役場3階議会第2会議室

出席者：右城委員、平本委員、藤岡委員、山口委員
協働文化推進課 伊藤

内容：押味委員が当日来れなくなり、前日に頂いた資料を皆さんにお見せしながら、意見交換をおこなった。今後の進め方やまとめ方についてなど、次回に再確認することとした。

第4回

日時：平成25年11月14日（木）13：30～15：15

場所：役場2階議会第2会議室

出席者：押味委員、右城委員、平本委員、藤岡委員、山口委員、横手委員
協働文化推進課 伊藤

内容：今後の方向性、検討期間において目指していく内容の再確認、役割分担等

(仮称)熟年パワー社会還元企画(近未来の新文化創り)の意義

健康なお年寄りの方々のボランティアで多方面に参加できる制度作りや具体的な企画

「肥やしとなるべく高齢者の生きがいの姿とかたち」

——高齢者のまちづくり協働体のありよう——

町と高齢者(NPO等)とのコラボで町政サービスを豊かに

その1、「グランドゴルフに参加しワイワイ賑やかに楽しんでいるお年寄りが多い町」「囲碁や趣味にコミュニティホールが老人で熱気ムンムンの市」。これらの市町村医療費公的負担が極端に減少した、介護を受けるお年寄りが減った。との報道あり。

その2、9月寒川町議会での条例可決に次の案件が含まれていました。「平成25年国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)」。「平成25年後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)」併せて関連する陳情として、「国民健康保険制度における国庫負担の増額を求める陳情書」。これらのことは何を物語っているのでしょうか。医療関係の費用負担が昨年度より増額していることであり、予算作成上で費用増額を予測できていなかったことと踏めます。福祉医療費の増額の証。

その3、今後30年間の推計予想(藻谷浩介氏 日本総合研究所主任研究員「デフレの正体」著他)

現役世代→	高齢者→	後期高齢者→	
15歳～64歳	65歳～74歳	75歳～84歳	85歳以上
30%減	1. 3倍増	2. 7倍増(1000万人程)	※ 一番多い年代になる

その4、高齢者の様態例

65歳～74歳	75歳～84歳	85歳以上
①寝たきり等	①寝たきり・認知等	①寝たきり・認知・病気がち等
②病気がち等	②病気がち等	③趣味・自力生活など
③趣味・ボランティア等※	③趣味・ボランティア等	
④労働・働く※		

その5、近未来に目を細めると、町役場の吏員の増員は厳しく、公共料金や税の増額は遣り繰り工夫の英知で乗り越えざるを得ません。住民サービスはさらに複雑多様に要求度を増加させることと予測できます。人間的なコミュニケーションやスキンシップも子育てには一層求められています。地域寺小屋的な受け皿も就学児童には必要になります。

新たな生きがい求めませんか?・・・現在まで見えてきた具体の姿

(1)行政へのお手伝い 等

(2)子どもたちへのお手伝い・・・⑦学童とのF・F(フエース・フエース)

⑧子ども寺小屋

⑨あそび塾 等

(3)後期高齢者へのお手伝い 等

平成25年度まちづくり推進会議 次第6議事 (5)研究部会の設置等について

平成25年11月19日

(仮称)熟年パワー社会還元企画(近未来の新文化創り)

健康なお年寄りの方々をボランティアで多方面に参加できる制度作りや具体的な企画

行政のプランと企画の整合性

寒川町との話し合い

① 支援が必要な高齢者

町担当者と研究部会

関係部長・課長との懇談

※ 学童保育担当課との話し合い

※ 学童FF 子ども寺小屋 あそび塾

検討1

※ 学童担当との話し合いで見えてきた内容

※ 老・老支援

② 可能な業務の選定

各課に情報収集のアンケート

検討2

案内文の雛形作成

③ 従事者の服 務規約

④ 服務規約作り

⑤ 試行期間

⑥ 本格実施

業務内容の決定

④ 広報等情宣

「肥やしとなるべく高齢者の生きがいの姿とかたち」
——高齢者のまちづくり協働体のありよう——
町と高齢者(NPO等)とのコラボで町政を豊かに

資料3 お誘い文例を作文・・・「広報 さむかわ」「町内会回覧板」「掲示板」などあらゆる手段を使って情宣

「こやしになりませんか?!」 お誘い!!デース...

「寒川町の新文化をいっしょに・・・」

高齢者の皆さんは、ゲートボールにこじりの方、囲碁に時を満たす皆さん、ゴルフや趣味に仲間と過ごす方々などなど・・・、それぞれの関心や興味や特技などに応じての日常と思われれます。

アフリカには、「1人の老人が死ぬことは、一つの図書館がなくなることと同じだ」との諺があります。

高齢者の方々は今までに培った素晴らしいキャリアをお持ちであり、長い人生における知識や経験、技能をふんだんに身に付けた知恵の塊といっても過言ではありません。

皆さんのお力を何らかのかたちで発揮しませんか?
今までのキャリアを地域に還元し、役立ててもらえませんか?
困っている高齢者にできることはありませんか?
現役世代や子ども世代の助っ人になりませんか?

近未来に目を細めてみますと、65歳以上の方々が総人口の25%を超えていて、さらに今後30年間では85歳以上の人口が1000万人、現在の2.7倍に増えるとの予測がでています。

町役場の吏員の増員は厳しく、住民サービスはさらに複雑多様に要求度を増加させることと踏めます。人間的なコミュニケーションやスキンシップも子育てには一層求められています。地域寺小屋的な受け皿も就学児童には今以上に必要になります。

世のため、人のため、地域のため、子どものため、などなどの生きがいを抱き、携わることは、健康増進にもきつと好影響を与え、病院通いも減少することでしょう。

具体的な支援・援助業務名例をあげる

関心をお持ちの方は・・・・・・・・へご連絡ください。

まちづくり推進会議研究部会・熟年パワー社会還元研究部会

情報収集アンケート文案例

平成26年〇〇月〇〇日

各課長様

「高齢者が何かお手伝いできる場はありますか?!」アンケート

まちづくり推進会議研究部会・(仮称)熟年パワー社会還元研究部会

課長様におかれましては、日頃からまちづくり推進会議にはご理解とご協力を賜っております。

さて、まちづくり推進会議研究部会・(仮称)熟年パワー社会還元研究部会では、65歳以上の方々が総人口の25%を超えている現状を鑑み、現役時代に培ったキャリアを社会に還元できる具体的な内容と定着の方法・手順などを鋭意研究・検討中でございます。

町行政の近未来に目を転じますと、住民サービスはさらに複雑化し、多種多様な要求の増加とともに、迅速な対応と課題解決を尚一層迫られていくことと思われまます。併せて、まちづくりの将来ビジョンを描くとともに、その素早い実行・実現の声が住民から強く求められている昨今であります。

実際に業務を担当している吏員の増員は今後一層厳しく、しかも公共料金や税の増額は業務の遣り繰り工夫の英知で乗り越えざるを得ない現実が見えています。行政経費の削減にも着実な英断が急務です。行政マンの皆さんは、吏員としての本来の業務に集中して携わることができるならば、問題解決が今より数多くなされることと思われまます。

一方、町内を見渡して支援を必要とする高齢の方々がいらっしやったり、人の温もりを欲していそうな就学前児や学童がいたりなど想像できます。

つきましては標記の件について、「この業務はどなたか外部の人にやってほしい」「この担当のこの業務は助っ人をお願いしたい」「このようなことができたならサービス向上につながるなあ」「このようなことをしてくれる方がいたらなあ」「このようなことを元気な高齢者をお願いしたい」などの業務で人手があつたらなあと思われるものを幾つでもよろしいですから、お考えをお聞かせください。

まちづくり推進研究の基礎資料にさせていただきます。回答は研究検討資料ですので公開いたしません。

キリトリ線

まちづくり推進会議研究部会宛

課

課長

※〇〇月〇〇日までに・・・・・・・・お渡しく下さい。

